



ディズニーの夢と幸せ溢れるウエディングコレクション「MORE HAPPY」 Flower Wedding Collection
ディズニー「ミッキー&ミニー ウエディングボックスケーキ」を使った
披露宴用ゲストテーブル装花の取扱いを
1月4日(土)から開始

株式会社日比谷花壇(本社:東京都港区、代表取締役社長:宮島浩彰)は、ディズニーのキャラクターのデザインを採用したウエディング向け商品コレクション「MORE HAPPY」 Flower Wedding Collectionとして、ディズニーの夢と幸せ溢れる世界観を表現した、ディズニー「ミッキー&ミニー ウエディングボックスケーキ」をデザイン・企画し、2014年1月4日(土)から、首都圏エリアのホテル・ゲストハウス内の当社店舗 7 店舗*で、この商品を使ったウエディング(披露宴)用ゲストテーブル装花の取扱いを開始します。順次取り扱い店舗を全国に拡大していきます。(展開店舗詳細は別紙参照)



ディズニー「ミッキー&ミニー ウエディングボックスケーキ」は、ミッキーとミニーのモチーフをデザインしたピンク色の円筒形のボックスを3段重ね、一番上の段のボックスに生花をアレンジする、まるでウエディングケーキのような、ゲストテーブル装花用のアイテムです。

下から、1段目は、ミッキーのモチーフがデザインされたボックスにウエディングドレスのような純白の布地をあしらい、2段目は、タキシード姿のミッキーとウエディングドレス姿のミニーのシルエットがデザインされ、3段目は、好みの色合いの生花とミッキーのシルエットが刺繍された当社オリジナルリボンボックスにあしらったフラワーアレンジメントとなります。3段目のフラワーアレンジメントは、披露宴後、招待した披露宴ゲストへのプレゼントとして、そのまま持ち帰っていただくことができます。

ゲストテーブルの他にも、ウェルカムコーナーの装飾や、新郎新婦が座るメインテーブルのサイドを彩るテーブルフラワーとしても利用することができます。

当社はこれまで、ディズニーのウエディング向け商品コレクション「MORE HAPPY」 Flower Wedding Collectionとして、ウエディングブーケやフラワーシャワーを展開してきましたが、テーブルコーディネート向けの商品を開発するのは、今回が初めてとなります。ディズニーのウエディング商品コレクションを拡充していくことで、ディズニーの夢と幸せ溢れる世界の中でウエディングを行いたいというお客様の要望に応じていくとともに、さらなる需要の拡大を目指していきます。

こだわりのポイント



ミッキーのシルエット模様のオリジナルボックスに生花をアレンジ。そのまま持ち帰ることができます。生花の色合いは、好みに合わせて変更することができます。



ミッキーのシルエットが刺繍されたオリジナルリボン



タキシード姿のミッキーとウエディングドレス姿のミニーのシルエットがデザインされたオリジナルボックス

* 当社展開店舗のホテル・ゲストハウス内で披露宴を行う場合に利用できます。

※当社は、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:ポール・キャンドランド)とライセンス契約を締結し、2009年からディズニーキャラクターのフラワーギフトシリーズ、2012年からディズニーのキャラクターのデザインを採用したウエディング商品ライン「MORE HAPPY」 Flower Wedding Collectionを展開しています。

展開店舗：
浅草ビューホテル店(東京)
リーガロイヤルホテル東京店(東京)
青山ダイヤモンドホール店(東京)
メルパルク東京店(東京)
ホテルオークラ東京ベイ店(千葉)
アジュールひたちなかウエディングヴィラ店(茨城)
浦和ロイヤルパインズホテル店(埼玉)

* 展開店舗を順次全国に拡大していきます。

* ディズニー「ミッキー&ミニー ウエディングボックスケーキ」は、1セット¥13,230(税込)で、展開店舗のホテル・ゲストハウス内で披露宴を行うお客様向けに、会場のゲストテーブル装花、ウェルカムコーナーの装飾や、メインテーブルのサイドを彩るテーブルフラワーとして提供します。

株式会社日比谷花壇について

1872年創業、1950年に東京・日比谷公園店の出店後、株式会社日比谷花壇を設立。現在、全国に約180店舗を展開。フラワーギフトの企画・制作・販売のほか、これまでホテルやゲストハウスで、ウエディングフラワーコーディネートやブーケのデザイン・制作に長く携わってきました。花材そのものの美しさを活かし、品質にこだわることはもちろん、ホスピタリティと確かな技術に、新しいウエディングフラワーのデザイントレンドを取り入れながら、上質で心地よい空間を創造し、今後も花とともに感動を届けていきます。また今後もさまざまな日常の生活のシーンの中に、花と緑のある生活文化を創造していきます。